

第1分科会

通常の学級における発達障害のある子どもへの支援 ～学級サポートプランを活用したわかる授業づくり～

研究報告 笹森洋樹（国立特別支援教育総合研究所 総括研究員）

話題提供 田辺敦子（高知市立三里小学校 教諭）

大里朝彦（相模原市立富士見小学校 校長）

森 香明（熊谷市立富士見中学校 教諭）

指定討論 長澤正樹（新潟大学 教授）

司会 梅田真理（国立特別支援教育総合研究所 総括研究員）

第1分科会では、はじめに、司会者の梅田より、本分科会では、通常の学級における発達障害のある子どもへの支援に関する実践研究をもとに討論していく旨について伝え、その後、研究代表者である笹森より、2年間に渡って行われてきた重点推進研究「小・中学校等における発達障害のある子どもへの教科教育等の支援に関する研究」の概要についての説明が行われた。その後、実際に研究協力校として取り組んでこられた小・中学校の教諭らから話題提供がなされ、研究協力者である大学教員から指定討論がなされた。

（以上、要項 p15-25 参照）

<指定討論者から話題提供者への質問>

○「誰にでもわかる授業については、どのように効果を検証したのか？」

（三里小、田辺氏へ）

→毎年、学力調査（その他にも、読み書き検査等）をしているので、それによって比較している。しかし、それが、このようなユニバーサルデザインの授業による効果なのかについては、厳密にはわからない。

また、子どもの実態に関するチェックリストについてもつけているが、配慮のチェックがつかなくなったことで、効果が検証できる。

○「保護者や子どもへの学校の説明責任をどのように行っているか？」

（富士見小、大里氏へ）

→学校便りを通じて伝えている。また、PTA に対しては、講座を行ったりしている。

さらには、担任を通して話を行ったりする。学校出張相談員、特別支援教育コーディネーター、校長等、誰と話したいかを保護者に尋ね希望を聞く。また、アンケートを行い、答えが必要な場合には記名を求め、回答している。

○「教科別の特性に合った授業づくりを行ってきたの苦労話は？」

（富士見中、森氏へ）

→職員の異動があること。毎年、特別支援教育への意識、そうした子どもへの配慮に関す

る共通意識を得るのが困難だった。そこで、年度始めに特別支援で行ってきたことについての研修を行い、その後、教科での対応についても話をした。

授業では、各教科で身につけるべき学習内容を明確にして指導を行っているが、これに加え特別支援の視点から個別の配慮を授業展開に位置づけている。全体指導と個別の支援のバランスが課題である。

<参加者との質疑応答>

○小学校通常学級教員より「中学校でのプリントの工夫はすばらしいと思ったが、日常的にこのようなことができていたのか？3年間の取り組みで学力は上がったといったエビデンスはあるのか？学習規律を身につける上で注意した点は？」

→（笹森氏）学校へ行ったが子どもがあいさつをよくする。げた箱、ロッカーがきれい。

→（森氏）プリントについて、はじめは試行錯誤。こんなのがいいかなというのをひとつずつ取り込んでいった。自分たちが普段できる範囲で、こうしたプリントを使うようにしている（研究授業だからとかではなくて）。学力のエビデンスについては、学力テストで、市の平均を上回っていた。学習規律については、授業などでは、学ぶべき内容が多く、「子どもが〇〇したまま」で説明しがちであるが、話をするときには、必ず手をとめさせて教師に注目させるなど、生徒との間を大切にしている。

○中学校特別支援学級教員より「発達障害のある子どもの教育の場をどう考えるか。特別支援学級が設置してあるところのケースの話であったが、ない場合は？特別支援教室化構想を考えたときに、どういう行程をたどっていくのか？」

→（笹森氏）子どもの教育的ニーズに応じて、その子にあった場を選択していく。

→（文科省樋口調査官）特別支援教室を考えていく上で、教員の配置の仕方等考えていかなければならないことは多い。現在、研究開発学校で行っているのは、特別支援教室という形を行った場合に、どういうことができるかについて実践してもらっている。現行制度の拡充（例：通級の拡充）も考えていく。

○小学校教員より「大里氏へ。コーディネーターの複数配置が参考になった。確かに、学級担任以外の教頭、教務主任、生徒指導の3役は渉外しやすい。また、別件だが、特別支援学級が校内の中心にあって、よく子どもたちが遊んでいた。特別支援学校の校内の中心配置についても紹介したい」。

→（大里氏）メインコーディネーターは、1年生の学年主任がやっている。関係機関と連絡がとりやすいのは教頭、指導計画をたてやすいのは教務主任、なので、複数配置にしている。できれば、コーディネーターを級外にしたいと思っている。

<まとめ>（長澤氏より）

「だれにもわかる授業」、ユニバーサルデザインについての考え方を整理した。
(要項、p.24.25 を参照)